



社会福祉法人 蓮花苑

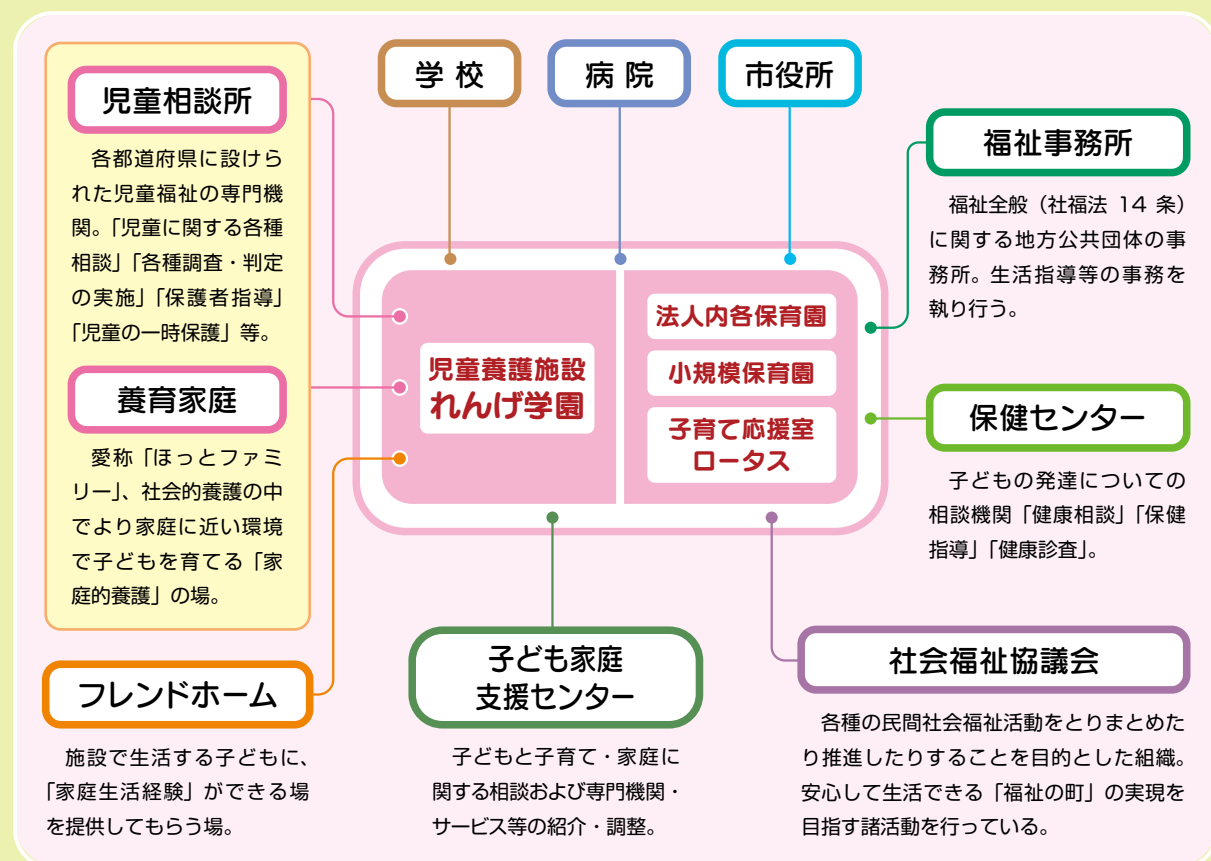
れんげだより



法人理念
報恩感謝

目次	他機関との連携	1
	はばたける大空	2
	れんげ学園 体験することの大切さ	3
	大空へはばたけ コロナ禍を経て	5
	コロナ禍を経て	5
	保健／給食	9
	音楽祭	10
	ほっこりエピソード	11
	令和4年度会計報告	13
	後援会員及び寄付者ご芳名	14

他 機 関 と の 連 携



はばたける大空

社会福祉法人 蓮花苑 理事長 佐々木晶堂

令和6年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

先ず始めに、本年元日夕刻に発生した能登半島地震に関連して亡くなられた人達に深く哀悼の意を表すと共に、被災された方達の安全な生活の復活と地域の復興を心より祈念申し上げます。

また、昨年度（前号）では敢えて触れなかったロシアによるウクライナ侵攻についても言及しなければなりません。誰もが早期に解決する事を期待しておりましたが、この2月でとうとう2年間が経過してしまい、未だに終結の兆しさえ見出す事が出来ないような状況となっています。更に加えて、昨年秋からはハマスによるテロ事件を契機としてイスラエルによるパレスチナのガザ地区への侵攻も開始され、こちらも戦闘状態が継続したままです。どちらの国や地域でもこれら戦火の下では住民の人達の通常の生活は崩壊し子どもや高齢者を含む弱者はとりわけ危険で困難な状況下に置かれています。

たとえどのような歴史的経緯や民族的・宗教的な感情の対立があったとしても、現代の世界に於いては一つの国やその一部指導者の思惑や欲望によって他の国や地域の住民の生命・健康や財産を侵してはならない、私達人類はそのような秩序を築く為に努力して来たとしこれからも努めるべきではないでしょうか。

さて本「れんげだより」に於いて過去4年間言及してまいりましたコロナ禍ではありますが、昨年5月をもって5類感染症に分類された事によって、人々の行動の制限はほとんど無くなりましたが、まだまだ完全に克服できた訳ではなく現に本年明けも第十波とも呼べるような流行が見られる状況でもある事から、前号でも述べたように、このような伝染病の危機がいつでも起こり得る事を前提とした社会生活を心がける必要があると思われる。そのような事から、今回の「れんげだより」に於きましては子ども達を含む人々の心身に大きな影響を及ぼしたコロナ禍を更めて見直して「大空へはばたけ」をスローガンとしてお届けさせていただきます。

上述したパレスチナのガザ地区は「天井の無い監獄」とも呼ばれていますが、この無い天井の上にも大空は広がっていますし、ウクライナにも大空は広がっています。しかしながらこれらの大空へは現状では子ども達もその夢も自由にはばたいて行く事は出来ないのです。子ども達がはばたいて行ける大空を確保しておく事が私達大人の責務と言えましょう。また、日本はほんのここ数十年の間にも中越地震・東日本大震災・熊本地震そして今回の能登半島地震と大きな地震を何度も経験し、加えて地球温暖化の影響も受けた形での集中豪雨や大型台風等の大水害も経験しているように、世界的に見ても文明の進んだ人口密集地域としては珍しい厳しい自然環境化にあります。この厳しい自然災害に対処する方策も含めて、最低でも戦下の無い易しい社会環境を整えて次代の人達に継いでいく事も現代の私達大人の責務と言えるでしょう。



れんげ学園 体験することの大切さ



2020 年春からのコロナ禍で、突然、私たちの行動は大きく制限されました。れんげ学園の子どもたちも、直接的な体験の機会が減り、間接的・擬似的な体験の機会が圧倒的に多くなりました。それでも私たちは、直接体験の大切さは変わらないと考えてきました。

直接体験では、「現実の他者」や「自然環境」などを相手に、自分の思い通りにならないことや予想外のトラブルなど向き合う必要があります。そして解決策や妥協点を考えて、行動していくことが求められます。他者を助けたり、他者に助けられたりする場面もあります。子どもは、このような体験を通じて、自ら取り組む力や豊かな人間性を身につけることができます。これは間接的・擬似的な体験だけではなかなか得られないものです。

2023 年 5 月から新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症に移行し、これまであった行動制限は緩和されました。れんげ学園でも、コロナ前は毎年恒例だった行事が少しずつ復活しました。



熱川臨海

普段だったら、何があっても絶対に起きられない時間に起床して、早朝の少し肌寒さを感じる空気の中、朝釣りに向かいました。朝日に向かって、初めて握る釣り竿をフルキャスト！ しっかり釣果もあり、気分は最高です！



バーベキュー

普段と違う環境の中で、自分達で火を起こし、お肉などを焼いて食べました。自然の中で草相撲をしたり、川に入って探検をしながら浅い所を泳いだり、川で冷えた身体を温泉で温めるなど、幸せな体験がたくさんできました。



納涼会

数年ぶりの飲食を伴う行事の復活ということで、職員が子どもの目の前で焼き鳥を焼きました。子ども達は熱々の焼き鳥を最高の笑顔で頬張りました。最後は、夜空を彩る 100 発近くの噴出し花火の迫力を体験しました。



ハロウィン

お姫様のドレス、かぼちゃ、ミニオンなど、自分の好きな衣装を身につけ、子ども達は園庭に集まりました。同じく仮装をした横田基地のボランティアの皆さまから、ちょっとドキドキしながらお菓子をいただきました。



クリスマス・パーティー

ハーレーチームの皆さんが来園してくださり、本物さながらのサンタクロースが登場して、子ども達ひとりひとりにクリスマスプレゼントを配って下さいました。当日は 12 月とは思えないような暖かな日で、園庭でみんなと一緒に食べたカレーは、普段のカレーよりずっと美味しかったです。

こうしたひとつひとつの体験が、子ども達の生きる力となり、将来の糧となることを願っています。れんげ学園では、これからも子ども達にたくさんの楽しい体験の機会を提供していきたいです。



大空へはばたけ

コロナ禍を経て

コロナ禍を振りかえってみると、

失ったものばかりではなく得たものも多かったように思います。

保育を見直すきっかけにもなりました。

経験した今だからこそ言えること、感じたこと、そして取り組んできたこと、

職員の思いをこの1冊に込めました。

明るい未来にむかって

れんげ保育園 町田 貴子

私は1年間の育児休暇を経て去年の4月に仕事復帰をしました。

妊娠・出産時はちょうどコロナ禍で入院中も誰にも会うことはできませんでした。また、出産後も友人や親戚に気軽に会うことができなくなってしまったので、育児に悩んだときに相談することが難しく、ネットを使って情報収集をすることもたびたびありました。育児休暇中は社会とのつながりが薄くなってしまっていたように感じます。

コロナウイルスが流行して、当たり前にあった環境や生活が当たり前ではなくなり、人と人とのつながりがどれほど温かく、大切なものなのかを改めて気づききっかけとなりました。今は便利で、役立つツールやサービスはたくさんありますが、どんなに便利な世の中になっても、やはり人との関わりによって得られる経験に、勝るものはないと思います。

コロナウイルスが5類になり、マスクを外す生活や、外出をする機会も増えてきて、少しずつ以前の日常が戻ってきました。1歳6か月の我が子も保育園に通い、たくさんのお友達や先生方に囲まれて毎日楽しく過ごしています。私自身も子育てと仕事の両立で余裕がなくなってしまう

こともあります。子どもの笑顔に癒され、小さな幸せがどれほどすばらしいことなのかを感じながら、日々成長させてもらっています。

コロナ禍は世界中の人々の生活を大きく変える、長く辛い出来事でした。これからの未来を生きていく子どもたちが、希望を持って笑顔で過ごせる明るい社会を作っていけるよう、私は母として、保育士として愛情いっぱい子どもたちと関わっていききたいと思います。



コロナ禍を経て思うこと

れんげ砂川保育園 澤山 明子

コロナウイルスという言葉が世の中を席卷してから4年がたとうとしています。保育の現場でもいろいろな変化がありましたが、やっと以前の日常が戻りつつあります。

先日担任している4歳児クラス（あんず組）と1歳児クラス（つくし組）でお散歩に出かけました。あんず組の子どもたちは、自分たちがお兄さんお姉さんだから、つくし組さんを守ろうと背筋をピンと伸ばし、少しの緊張感を



持って、手をつなぎ、一生懸命に歩を合わせて歩いて行きました。段差やでこぼこのあるところでは、自分たちがでこぼこのほうを歩き、少しでも平らな部分をつくしさんに歩いてもらおうとしていました。

散歩先の広場でドングリや小枝拾いを始めると、つくし組さんに見せたり、「ここにあるからおいで」と呼んだり、切り株を見つけると「危ないよ」と教えている姿がありました。すると、つくし組の子ども、保育者に声を掛けられるときはまた違った、キラキラした憧れの目であんず組の子どもたちを見ていました。そのようなようすを見ると、私たちもとてもうれしくなってきます。散歩ができるっていいな、何よりも子ども同士の関わりってすてきなと感じました。

あの日々があったから、再び子ども同士の関わりを持てること、四季を感じながら過ごせることのすばらしさに気づいて、感謝の気持ちを持てるようになりました。

すべてのことに感謝の気持ちを持つことを子どもたちに伝えていきたいと再確認した1日でした。

マスクの下の笑顔

れんげ萩山保育園 高木 亮輔

現在、落ち着きを見せている新型コロナウイルス。保育園を取り巻く環境、現場への影響はとても大きいもので、失うものも多くありましたが、得たものも多かったように感じます。

長くマスクを使用しての生活が続き、子どもたちは保育士の素顔がわからないのではないかと 笑顔を感じていないのではないかと 思い始めました。感情を伝えるのは表情だけではありませんが、マスクで目しか見えない顔は子どもたちとの関係に少なからず影響を与えていました。

私たちの園のテーマは「笑顔の力」、どうしたら子どもたちにそれを伝えることができるのか……。私たちはマスクをしていても職員、保護者、子どもたちにもわかるように「目で笑う」、それが伝わるようにしていこうと、保健会議でマスクをしている顔の表情などの園内研修を行い、意識を変えていくことにしました。

コロナウイルスが5類に分類されて以降は少しずつマスクを外して子どもたちと関わるようになると、すぐに大きな変化がありました。保育士の笑顔、困った顔、ちょっとおもしろい顔を見せると……。 「そんな顔できるんだ」

と言う子どもたちの声を聞いて、感情をのせた表情を見せられていなかったんだと思いました。乳児クラスの子どもは「この人は誰？」といった眼差しで保育士の目をじっと見ていました。すぐにすべてを取り戻すことは難しいですが、「失ったものがある」ということに気づきました。

まだまだいろいろな感染症が広がり、マスクを着用する場面がありますが、マスクの下の表情が伝わるよう、子どもと関わり、笑顔であふれたコロナ前の姿に戻れるように保育をしていきたいと思います。



「マスクの下の顔ってどんな顔？」

私は今年で2年目ですが、大学時代3年間れんげ桜が丘保育園でアルバイトさせていただいていました。そのため、園でお世話になって5年目となりますが、この5年間ほとんどの子が私のマスクのない顔を知らなかったと思います。今年度から徐々にコロナウイルスへの対策が緩和されていき、行事ではマスクを外して参加する機会が増えました。その際「あれ？」と一瞬不思議そうにする子、



れんげ桜が丘保育園 乙部 菜々美

またはじーっと顔を観察する姿が見られました。私は今2歳児クラスを受け持っていますが、「この子たちは大人がマスクをしている姿が当たり前なんだ」と日々の生活のなかで感じ、少し寂しくなります。

コロナウイルスが流行り、さまざまな行事がなくなり、または縮小されてしまい、日々の生活でも黙食を促さなくてはならず、子どもたち同士の関わりも制限せざるを得ませんでした。保護者の皆さんも貴重なこの時期の子どもたちの姿を行事などで見る機会が減り、もどかしかったと思われる。

緩和されてからは少しずつ以前のような生活ができるようになり、子どもたち同士の関わりもまた密になってきたと感じます。

私自身もコロナ禍を経て、コミュニケーションをとる際に表情をより意識するようになりました。コロナを理由に子どもたちの経験を制限するのではなく、ではどうしたらよいかを考え、子どもの経験がより豊かになるように保育者として努めていけたらと思います。

子どもたちと笑顔あふれる生活を

コロナ禍は2020年の1月。当時の私は大学生でした。この園でのアルバイトを経て、就職したときにはいろいろなことが制限されていました。コロナ前は異年齢が交流を深めるために、にこにこ保育となかよしが月に1度行われていました。大きいクラスが下のクラスを気づかってあげたり、下のクラスが上のクラスに憧れを持ったりしながら遊びを楽しんでいましたが、それが難しくなり、玩具の消毒が間に合わず、おもちゃの使用を制限していた時期もありました。コロナとの生活が日常になってしまった今、子どもたちには当たり前の生活なのかもしれません。ですが、その当たり前になってしまった生活をコロナ以前の日常として1日でも早く取り戻したいです。

そして、5類に移行になり園の行事も少しずつ元の形に戻り始めてはいるものの、まだまだ日常生活のなかでマスクが欠かせないものになっています。子どもたちに保育者の表情が伝わらないのではないかと心配を抱えながら保育をしてきました。子どもたちを守るという目的のもと、心と手をつくしてきました。私たちは「早く戻ってほ



れんげ南街保育園 大堀 和花

しい」と思い続けていますが、コロナ禍で育ってきた子どもたちにとっては、「元に戻った」と思うよりも「新たな生活が始まる」という感覚なのかもしれません。そんな新しい生活のなかで異年齢児との関わりがもっとたくさん増えるように、コロナのことを思い出さずに、子どもたちと笑顔いっぱい生活ができるようになってほしいと願うばかりです。

「当たり前」の大切さ

コロナという感染症が流行し、月日が流れました。保育園での活動や、行事など制限をされるなかで、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができるよう、さまざまな工夫をしてきました。

そして現在、日常生活の大切さを実感しています。「一緒に遊ぼうよ」「ブロックしよう」と遊び始め、私はその



れんげ武蔵保育園 高橋 こずえ

ようすを見守りながら「どんどんつなげると大きくなるね」と言葉を掛けると、子どもたちが「こうする?」「うん、これも」と子ども同士での会話のやりとりが始まり、ブロックが少しずつつながり、そしてその周りには、積み木を倒れないように並べる子どももいて、「先生ここやって」といつの間にか一緒に遊び始めていました。壊さないようにそっと並べる子どもたち、積み木がなくなるまで一緒に作り、できあがるとマットの上はまるでお城。「やった! 本物のお城みたいだ」とみんなで喜びました。

最初は1人ひとりで作った物をみんなつなげあわせて作りあげたときの達成感、その瞬間の子どもたちの顔は、満面の笑顔。1人遊びから友達と一緒に遊ぶ楽しさを実感し、夢中に遊び笑顔になった瞬間に立ち会え、保育士でよかった、「また明日がんばろう」とエネルギーとなりました。

日々の生活のなかに子どもの成長を見ることがたくさんあり、この子どもたちがこれから成長しても、自由に伸び伸びと育ち、広い世界に向かってはばたいていってほしいと願っています。

コロナ禍を経て

令和2年より続いたコロナ。5類に移行となった今でも完全に消えたわけではなく、社会と共存する形で残っています。コロナが子どもたちに与えた影響を考えると、目に見えないウイルスの脅威がこれほどまでかと無力感さえ感じるほどでした。

子どもたちが毎日楽しみにしている給食は、お友達と会話するのも許されないような黙食に。屈託のない笑顔はマスクに覆い隠され、息苦しさもあるなかでよく我慢して毎日着けてくれていたと思います。行事の規模も縮小、見学にくる保護者も寂しい思いをされたかもしれません。それでもこの法人の取り組みは子どもたちの我慢を最小限に、笑顔を守るために保育者が一丸となって温かく楽しい保育を提供していたことがよかったのではないかと思います。誕生日会や季節の集会では、いつも子どもたちの明るい歓声が聞こえていました。

コロナ禍が明け、園生活や行事も元の水準に戻りつつあり、園庭には新しい築山も完成しました。毎日子どもたちが築山でのびのびと遊び笑い声が響いている光景こそ、

れんげ上北台保育園 久津美 幸江

保育士として働く自分がずっと守っていききたいものだと考えています。

生きにくい世の中と言われる昨今ですが、子どもたちの個性も多様になってきています。1人ひとりの個性を受容し、その笑顔を守るよう自分にできることは何かをつねに考えながら自己研鑽してまいります。



保 健

れんげ砂川保育園 中鉢 桂子

コロナ禍において、さまざまな側面で新しい生活様式を強いられてきた子どもたち。保育園でも行事の縮小に加え、黙食をしなければならなかったり、お散歩もこれまでにはできなかったりと、さまざまな変化がありました。こうした変化による子どもたちの心の健康への影響が、世界中で指摘されていました。ある小児科研究結果によると、コロナ前と比べ怒りっぽくなった、暴力的になった、友達とすぐけんかになってしまう、自分を傷つけてしまうなどの行為が増加したことがわかったそうです。

私たち看護師も、そうした背景による子どもたちへの影響が気がかりでした。そこで保健では、自分のことを大切

に思ってもらいたい、そして自分だけではなく周りのお友達のことも大切にしてほしいという思いより、年長さんを対象に「保健の日」として保健指導を行うことにしました。まずは体のしくみを知ってもらうため、制作を交えながら楽しく学んでもらえるよう工夫しました。それぞれの体のなかにある臓器の名前や役割、食べたものってどうなるの？などイラストや模型を使い説明したり、聴診器で実際に心臓の音を聞いたり、自分の骨のある場所を触って確認したりなど、見て実感してもらいました。制作ではそれぞれの臓器を作り、エプロンを完成させました。最後に、みんなが元気に過ごしているのはからだのなかにはいろんなお部屋があって、その1つひとつが一生懸命働いてくれるから、そんな自分の体を大切に、そしてお友達の体も大切にしてほしいです、と伝えました。

「保健の日」として少し時間をかけ、子どもたちと一緒に体の大切さを学べたことは、私たちにとっても大きな経験と学びになりました。これからも、興味を持って保健活動に参加してもらえるような内容を考えていきたいと思っています。



給 食

れんげ砂川保育園 奈良本 梨紗

3年前、新型コロナウイルス感染症が大流行し、私たちの生活が大きく変化していきました。保育園での子どもたちの食環境も以前と大きく変わりました。感染症対策として給食・おやつ時間はパーテーションを使用し、友達と仲よくお喋りをしながら食べていた給食もなるべく黙食。楽しい雰囲気での食事とはかけ離れてしまいました。食育活動では、旬の食材や野菜の皮むきなど実際に食材に触れる機会がなくなり、クッキングはデモンストレーションのみにになりました。そのときの感染状況やクラスのように、デコレーションなど個人でできるものに変更していましたが、毎月クッキングを楽しみにしていた子どもたちの残念そうな姿は今でも覚えています。

何度か感染拡大・縮小をくり返し徐々に規制も緩和されていき、5月には5類に引き下げられ少しずつ今までの生活が戻ってきました。食事のようすを見に行くと、楽しそうにお喋りをしながら「〇〇おいしい」と教えてくれます。大人が「一口はがんばってみたら？」と言うより、友達がおいしそうに食べている姿や、「これおいしい」の声を



音楽祭

れんげ上北台保育園 園長 佐々木 榮子

毎年7月初旬、東大和市のハミングホールの大ホールで行われる法人7園による年長児クラスの和太鼓、合唱の祭典も、もう3回目を終えました。3園と4園に分かれての2部制ですが、和太鼓演奏は各園、合唱は3園、4園の合同演奏です。リハーサルも1回きりですから、本当に周到な準備が必要になるのですが、各園の主任が中心になって、がんばっていただいています。

初めての経験に不安と期待をもち、演じてくれる子どもたちのようすは、とてもたのしい感じがします。緊張と不安は、リハーサルを越えると期待につながっていくようすが見えます。子どもたちの力は、無限ですね。

令和元年よりコロナの影響が大きく、園における行事も大きく様変わりしました。人と人との距離をあけること、マスクの着用、会食を避けるなど、今まで経験したことのないことが次々と起こり、気持ちも暗くなるばかりでした。

それでも子どもたちは日々成長しているのです。この貴重な時間を無駄に過ごすことはとても残念なことでした。日々成長をしていく子どもたちを止めてばかりではいけません。

大きな舞台で胸をはって演じきる子どもたちの姿を見られる幸せを、とてもうれしく思っています。



ほっこり エピソード 子どもや保護者から言われてうれしかったこと

● れんげ保育園

トイレ掃除をしているといつも「きれいにしてくれてありがとう」と声を掛けてくれる子がいます。私も「ありがとう」と返すと私も子どもも笑顔になります。「ありがとう」って心と心をつなぐ言葉です。

「地震です。地震です」の放送に続き、サイレンの音が鳴り響きました。不安になり泣き出す子もいましたが、保育者の掛け声に静かに避難する子どもたち。避難訓練が終わって部屋に戻ると笑顔になり、「先生がいるから大丈夫、怖くないよね」と1人の子が言ってくれました。この言葉にうれしくてたまりませんでした。



● れんげ萩山保育園



1歳児クラスの子どもと一緒に到着替えをしているときのこと。両足が入ったズボンを、あとは立ち上がって持ち上げれば履けるというときに「ぎゅーっしてね」と伝え、両手を広げてぎゅーと抱きしめてくれました。「ぎゅ」と聞いていちばんに思いつく行動がハグだなんて、なんだかほっこりしました。

休みに家族でおでかけした話を楽しそうに伝えてくれたAちゃん。「楽しかったのね。よかったね」と言うと、「先生も行きかけた？ こんど一緒に行こうねって、ママとパパに言うておくから大丈夫だよ。待っていてね」と頭をなでてくれました。

● れんげ砂川保育園

食育で里芋を子どもたちに紹介する時間があり、その日はたまたま遅番で保育の手伝いに入ったときに子どもたちから、「里芋見つけて食べたよ」「苦手だけど少し食べたよ」「おいしかった」など、たくさんの子どもたちが声を掛けてくれ、話したことを素直に聞いてくれて、思ったことをすぐに伝えてくれる子どもたち。本当にうれしかったです。保育園で働く調理師として、とてもやりがいを感じる瞬間でした。

じゃがいも掘りの日のお迎えの際「一生懸命に姿勢よく掘っていたのですよ」とある男の子のようすをお伝えすると、「家でもじゃがいも掘りを張り切っていて、掘るまねをして練習していたのです」と教えてくれ、行事を楽しみにしているのが伝わりうれしかった。



● れんげ桜が丘保育園

給食をもりもり食べ、食べ終わった後におかわり！「キラキラごぼうのおかわりくださいっ！」きんぴらごぼうのことを言いたかったようですが、ニコニコうれしそうに言っている姿を見て、おいしくてキラキラして見えただのかなと思い、ほっこりしました。

「こんこんくしゃん」が大好きな子どもたち。ある日リスの絵がプリントされている服を着てきた子に、「これなあに？」と友だちが尋ねると、「リスさんが♪マスクした♪のリスさんだよ」と歌って教えてあげていました。可愛い教え方にほっこりしました。



● れんげ南街保育園

誕生会の日、くまのデコレーションをしたカップケーキを前にし、「かわいい～かわいくって食べられないよおお～。うーん、でも食べちゃう！ おいしい」そんな心の動きが可愛くってうれしくて、ほっこりしました。



夏が終わり涼しくなり始めたある日、「先生、夏の暑い日も毎日、毎日、水遊びやシャワーで子どもたちを楽しませてくれてありがとうございました」としみじみ言ってもらい、あの日の大量の汗が報われた気がしました。

● れんげ上北台保育園

「毎日保育園に早くいきたい」と楽しみにしていると、いうことを教えてもらったとき。「子どものよいところをたくさん見つけてくれてありがとうございました」と言われたとき。

年長クラスの劇「ピーターパン」を見た日のおやつ



の時間、「今日のおやつは何パンでしようか？」と聞くと、子どもたちは「ピーターパン」と元気よくこたえていました。

● れんげ武蔵保育園

食育で魚についてお話を聞いた日の給食を見て、子ども「これ何の魚？」と興味津々のようす。保育者「これは、かれい。今日はかれいのムニエルです」と話しました。おいしそうに完食し、おかわりにきたH君。「さけのおかわりください」

次にきたA君「かれいのミニエルください！」、かれいは合っていましたが、少し違いました。横からH君が「ムニエルだよ」と教えてあげていましたが、それも少し違いますね。そんな姿にほっこりしました。

K君が家で寝ているとき、いつも言わないが「トントンして」とお母さんをお願いをしてきたそうです。「なんで？」と聞くと「〇〇先生が、いつもトントンしてくれるから」と言っていることや、ほかにも「この服がいい。だって〇〇先生も同じ色着ているから」と話しているそうで、慕ってくれている証拠なのかとうれしく思います。



令和 4 年度会計報告

当法人においては、社会福祉法等に則り、令和 4 年度における法人内全施設の会計報告を以下の通り公表いたします。これらは当法人の監事による監査を受けて、理事会及び評議員会において承認を受け、さらに公認会計士による外部監査を経て作成したものです。

貸借対照表

令和 5 年 3 月 31 日現在 (円)

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産	498,857,480	流動負債	128,628,629
現金預金	388,181,583	固定負債	46,910,000
未収金	103,892,629	負債の部合計	175,538,629
前払金	6,783,268	【純資産の部】	
固定資産	3,804,204,286	基本金	265,132,825
建物	1,424,500,859	国庫補助金等特別積立金	850,494,629
土地	132,340,644	その他の積立金	1,922,078,965
その他固定資産	2,247,362,783	次期繰越活動増減差額	1,089,816,718
		純資産の部合計	4,127,523,137
資産の部合計	4,303,061,766	負債及び純資産の部合計	4,303,061,766

資金収支計算書

(経営活動による収支)		(財務活動による収支)	
経常収入計	2,105,649,138	財務収入計	191,500,000
経常支出計	1,933,982,977	財務支出計	158,000,000
経常活動資金収支差額	171,666,161	財務活動資金収支差額	33,500,000
(施設整備等による収支)		(当期資金収支差額合計)	
施設整備等収入計	29,489,000	(前期末支払資金残高)	388,023,958
施設整備等支出計	179,147,480	(当期末支払資金残高)	443,531,639
施設整備等資金収支差額	△149,658,480		

後援会のおさそい

児童養護施設れんげ学園は児童福祉法による、虐待や保護者の疾病等の理由で、家族とともに生活することが困難な子どもたちが暮らす施設です。

後援会の皆様には行事等を通して子どもたちの成長を見守っていただいております。

年額 3,650 円を一口として、会費を納入いただき、上記会計報告のように物品寄贈を行ったり、将来の改築の際の備品購入に備えたりしておりますので、是非ご加入いただきたくお願いいたします。

お申込みはれんげ学園にて承ります。

TEL 042-565-8451 れんげ学園

後援会会員及び寄付者ご芳名

(令和 5 年 1 月～令和 5 年 1 2 月＊順不同・敬称略)

1 赤井 心美	32 月岡 美枝	63 小樽青果店	89 走る電気屋さんハッピー
2 油谷 雅広	33 David Garcia	64 コストコホールセール シャパン(株)	90 原田積善会
3 飯島 真由美	34 永井 祐司	65 後藤肉店	91 光建設(株)
4 池田 たか子	35 永井 洋平	66 国際ソロプチミスト東大和	92 ひまわり会
5 石井 孝寿	36 長尾 拓海	67 (株) サステナブル・ブラン ニング	93 VT CUBE JAPAN(株)
6 伊藤 知一	37 西岡 久子	68 (株) サン工芸	94 (株) 府中開治屋
7 稲垣 ありさ	38 根岸 佳凜	69 JA東京みどり 東大和支店	95 (株) フレーベル館
8 岩品 勝次	39 野口 芳子	70 (株) ジャパンゲートウェイ	96 Hott Mott
9 浦川 治美	40 長谷川 高	71 (特非) 自立生活センター 東大和	97 (公財) 毎日新聞東京社 会事業団
10 梅谷 令子	41 原田 毅	72 セカンドハーベストジャパン	98 (株) マルハン東大和店
11 風間 英昭	42 原口 毅	73 (株) セレモア	99 (福) 幹福祉会 東大和事 業所
12 上川 一正	43 日野 香澄	74 全国シャンメリー協同組合	100 (株) みずほ
13 川鍋 正晴	44 平野 廣義	75 (株) 創成社	101 (株) モト・ギャルソン
14 木村 三郎	45 比留間 タケ	76 (株) そこう 西武	102 山崎米店
15 清野 きち子	46 廣瀬 実子	77 (株) Daska&Desiree	103 横田西小学校
16 清野 伸子	47 半澤 一明	78 (株) チュチュアンナ	104 ライオンズクラブ
17 清野 二美子	48 マツキ	79 (有) THS	105 成道会ご参加の皆様
18 古川 剛史	49 村上 次利	80 (一社) 東京馬主協会	106 ハーレークリスマスチャリ ティライドご参加の皆様
19 古川 剛史・川村 一敏	50 山添 一郎・紀子	81 TOKYO EXPRESS MARKET	107 Amazon 欲しいものリスト からご寄付下さった皆様
20 後藤 多美子	51 吉江 英利	82 東京都蒔蒔共同組合	108 東大和市社会福祉協議 会を通してご寄付下さっ た皆様
21 小峰 一良・美保子	52 吉田 真紀	83 (一社) 東京文具工業連盟	
22 佐々木 栄亨	53 吉澤 久美子	84 (株) トライング	
23 柴田 照代	54 朝日管財(株)	85 日本鏡餅組合	
24 菅沼 京子	55 (株) イトーヨーカ堂	86 (公社) 日本缶詰びん詰レ トルト食品協会	*その他、お名前の掲載の許 可をいただけていない方及び 匿名の方より、合わせて67 件のご寄付をいただいております。
25 杉山 由香・美隆	56 岩田小児科医院	87 (一財) 日本児童養護施 設財団	
26 清水 剛	57 (株) ウインズ	88 ハウスギャバン(株)	
27 鈴木 哲郎	58 NX エネルギー関東(株)		
28 高橋 真央	59 (株) カプセル Z		
29 竹下 悦子	60 (資) 河原商店		
30 田中 三喜男	61 (株) 協同食品サービス		
31 長正路 樹	62 清野運送(有)		

毎年、保育活動に貢献した方を、法人全体研修時に表彰しています。

令和 5 年度 表 彰 者

れんげ萩山保育園
れんげ南街保育園
れんげ南街保育園

鍋島 聖美
渡辺 恵子
川崎 由紀

れんげ武蔵保育園
れんげ上北台保育園

石川 淳子
松本 三希子

れんげ保育園

〒207-0033
東京都東大和市芋窪 3-1615
TEL : 042-565-3342
FAX : 042-533-5611

れんげ上北台保育園

〒207-0032
東京都東大和市蔵敷 3-691-2
TEL : 042-563-3990
FAX : 042-561-5487

れんげ南街保育園

〒207-0014
東京都東大和市南街 4-3-1
TEL : 042-561-2341
FAX : 042-561-2342

れんげ萩山保育園

【本園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-18
TEL : 042-344-1486
FAX : 042-344-1466
【分園】〒187-0031
東京都小平市小川東町 4-3-1
TEL : 042-344-1484

れんげ砂川保育園

〒190-0001
東京都立川市若葉町 4-24-31
TEL : 042-536-5281
FAX : 042-536-5360

れんげ第二桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東大和市桜が丘 3-44-32
コーシャハイム玉川上水 3 号棟 103
TEL : 042-516-8155
FAX : 042-569-8398

れんげ武蔵保育園

〒208-0012
東京都武蔵村山市緑が丘 1732-1
TEL : 042-561-3959
FAX : 042-561-3958

れんげ桜が丘保育園

〒207-0022
東京都東大和市桜が丘 3-44-18
TEL : 042-567-4381
FAX : 042-590-7014

児童福祉施設 れんげ学園

〒207-0033
東京都東大和市芋窪 5-1161-3
TEL : 042-565-8451
FAX : 042-563-8078
〈グループケアホーム たんぽぽ〉
〒208-0013
東京都武蔵村山市大南 3-134-8
TEL : 042-516-8835
〈グループホーム なでしこ〉
〒208-0003
東京都武蔵村山市中央 3-23-5
TEL : 042-516-9121



地域社会の一員として



上級救命

蓮花苑では、多くの職員がさまざまな研修を実施しています。その一つとして、令和5年度は新任職員を含む55名が新たに上級救命技能認定を取得しました。昨年度は、北多摩西部消防署よりこれまでの功績に対して表彰を受けました。これからも大切な命を守るため、また地域社会の一員として努力したいと思います。



★ご協力いただいている第三者評価のアンケート及び
受審の結果はインターネットでご覧になれます。
(www.fukunavi.or.jp)
尚、園の詳細については各園のホームページをご覧ください。

編集後記

コロナ禍を経てこれから先、大空へはばたい
て行ってほしいという気持ちを込めその想い
を載せました。職員が一丸となり子どもたち
が大きく羽ばたいていけるよう保育に努めて
いきたいと思います。 〈富田 理恵〉

【令和5年度広報委員】

れんげ保育園	向田 眞奈美
れんげ砂川保育園	富田 理恵
れんげ萩山保育園	石山 理絵
れんげ桜が丘保育園	鈴木 徳香
れんげ南街保育園	下平 清香
れんげ武蔵保育園	田貫 豊美
れんげ上北台保育園	川里 佳世

れんげだより No.39 令和6年3月31日
発行/社会福祉法人 蓮花苑
〒207-0033 東京都東大和市芋窪 3-1615
TEL : 042-565-6811